

15. メッシュ調査

1. 目的

大台ヶ原の主要な下層植生であるササ類（ミヤコザサ、スズタケ）やコケ類の現在の分布状況を把握するために調査を実施した。

2. 調査期間

平成 14 年、20 年、24 年

3. 調査手法

大台ヶ原全体を 100mメッシュに細工分し、メッシュごとにササ類およびコケ類の被度を＋～5の6段階で記録した。ササ類については枯稈の有無、平均稈高、開花の有無、テングス病の有無（スズタケ）についても記録を行った。メッシュ内に防鹿柵が設置されている場合は、防鹿柵内外に分けて各項目の調査結果を記録した。

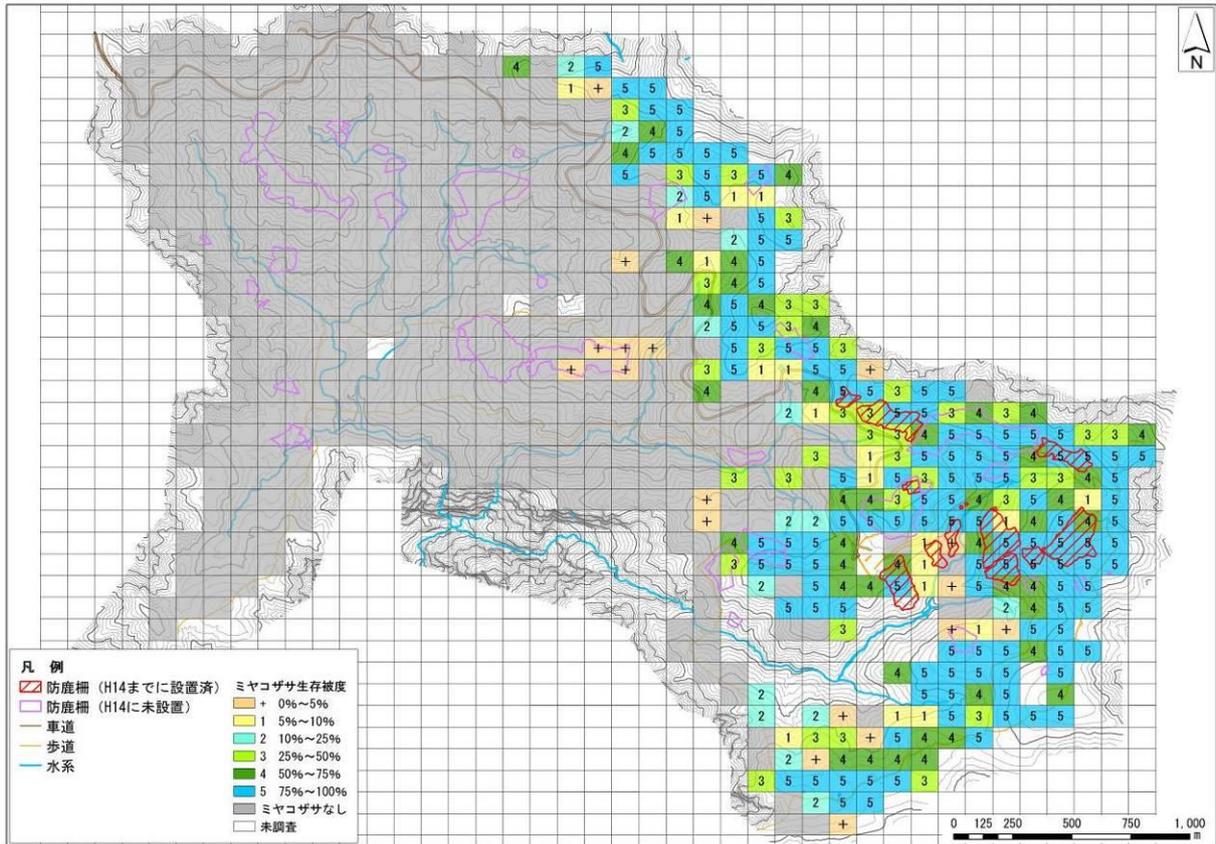
（1）ササ類の分布状況の変化について

1) ミヤコザサの分布状況の変化

平成 14、20、24 年のミヤコザサの被度クラス分布をそれぞれ図 1 に示した。また、ミヤコザサが確認されたメッシュ数の割合の変化を図 2 に、ミヤコザサの被度クラスメッシュ数の変化を図 3 に示した。

ミヤコザサの分布の特徴と変化について、以下にまとめた。

- ミヤコザサの分布域は、東大台が中心であり、西大台ではドライブウェイ北側が主な分布域となっている（図 1）。
- ミヤコザサの分布域は平成 14 年に比べ、平成 24 年は広がっている。確認されたメッシュ数の割合も同様に増加していた（図 2）。
- セツ池では、防鹿柵設置前の平成 14 年は被度クラスが＋（0～5%）であったが、防鹿柵設置（平成 16 年度）以降、被度が増加し、平成 24 年には被度クラスが高いところでは被度クラス 5（75～100%）となっていた。同様に防鹿柵内のミヤコザサの被度クラスは高くなる傾向が見られた（図 1）。
- 被度クラスのメッシュ数の変化については、被度クラス 5（75～100%）のメッシュ数が平成 24 年は平成 20 年に比べ減少していた（図 3）。日出ヶ岳付近や牛石ヶ原北側のメッシュでは、被度クラス 5（75～100%）から被度クラス 4（50～75%）に減少しているメッシュが見られた（図 1）。
- 平成 20 年にミヤコザサの分布中心から離れた場所である開拓付近で被度クラス＋で確認されたメッシュでは、平成 24 年には確認されなかった。同様に平成 20 年に被度クラスが低いメッシュについては、平成 24 年に確認されていないメッシュが見られた（図 1）。



※シオカラ谷部分は未調査

図 1(1) 平成 14 年のミヤコザサ被度クラス分布

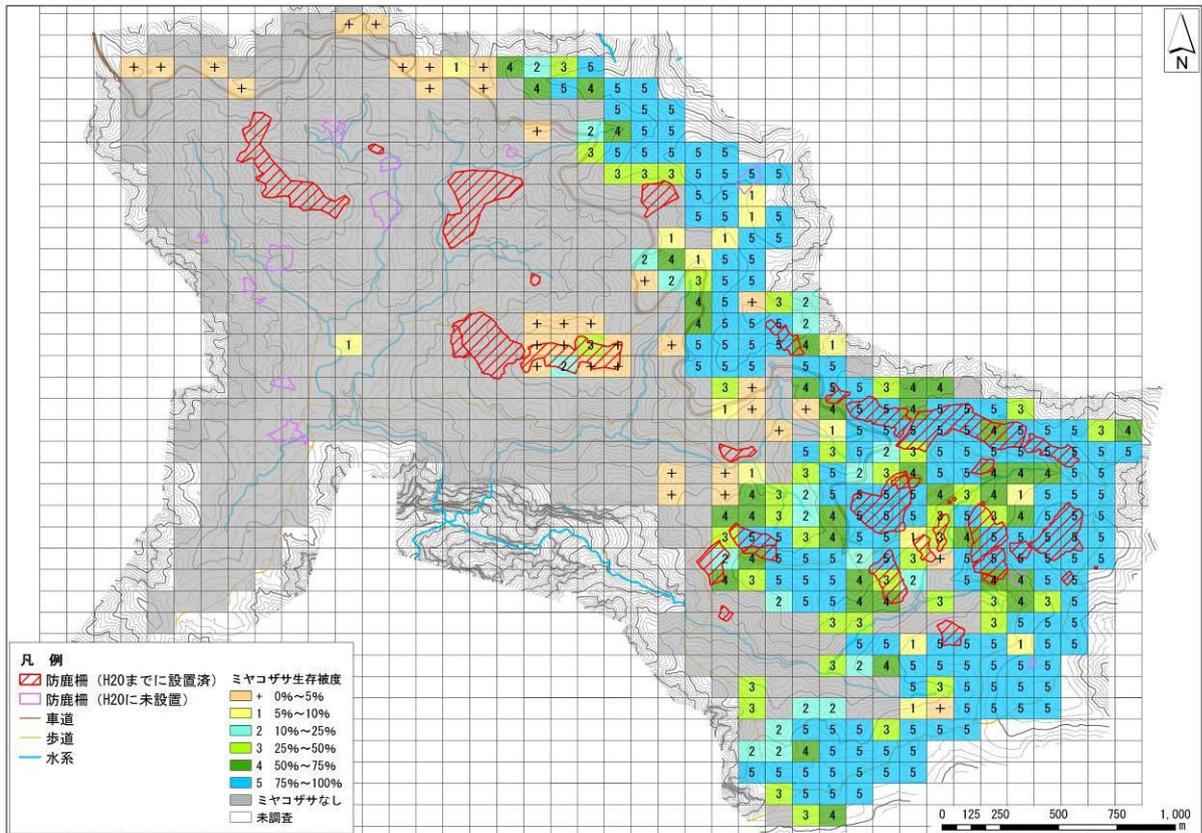


図 1(2) 平成 20 年のミヤコザサ被度クラス分布

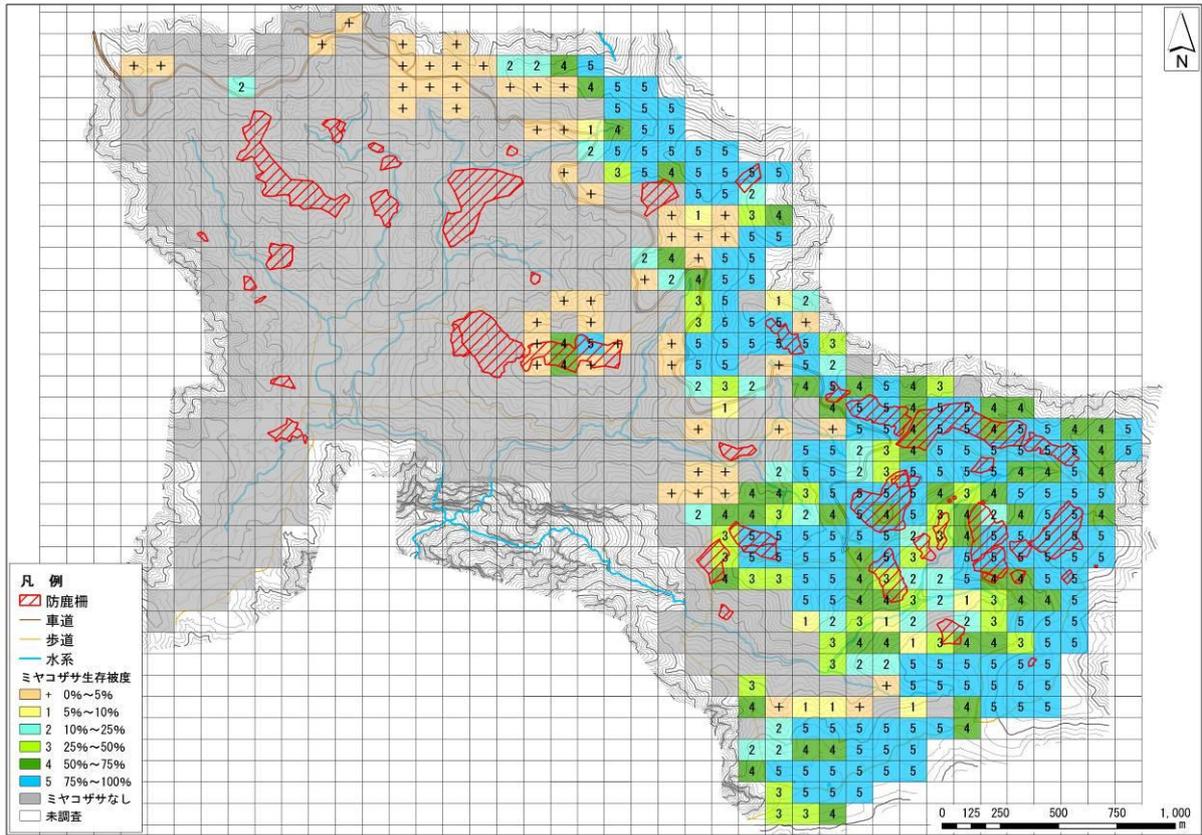


図 1 (3) 平成 24 年のミヤコザサ被度クラス分布

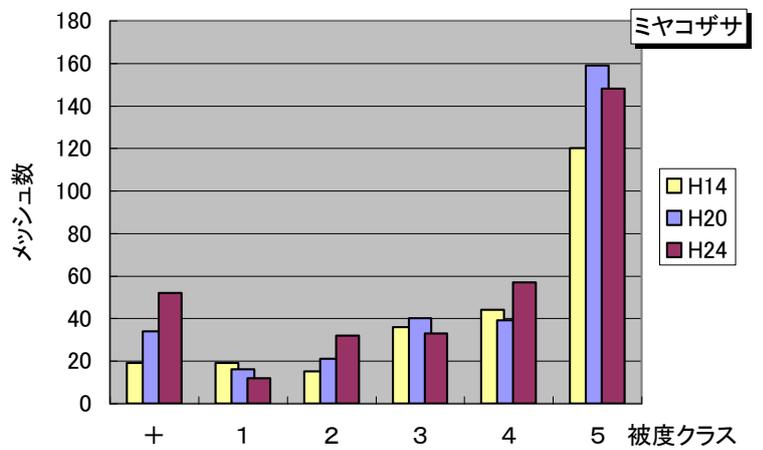
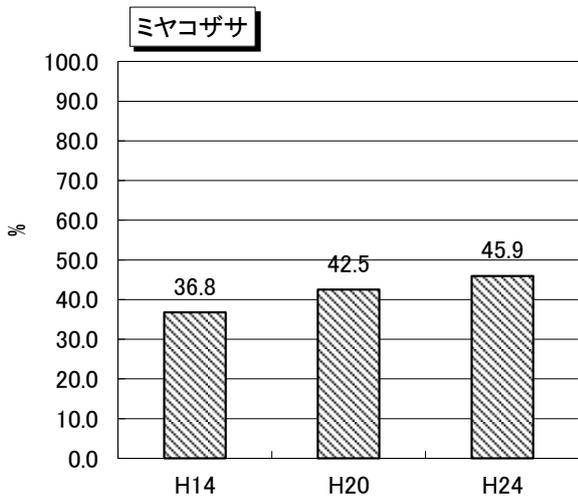
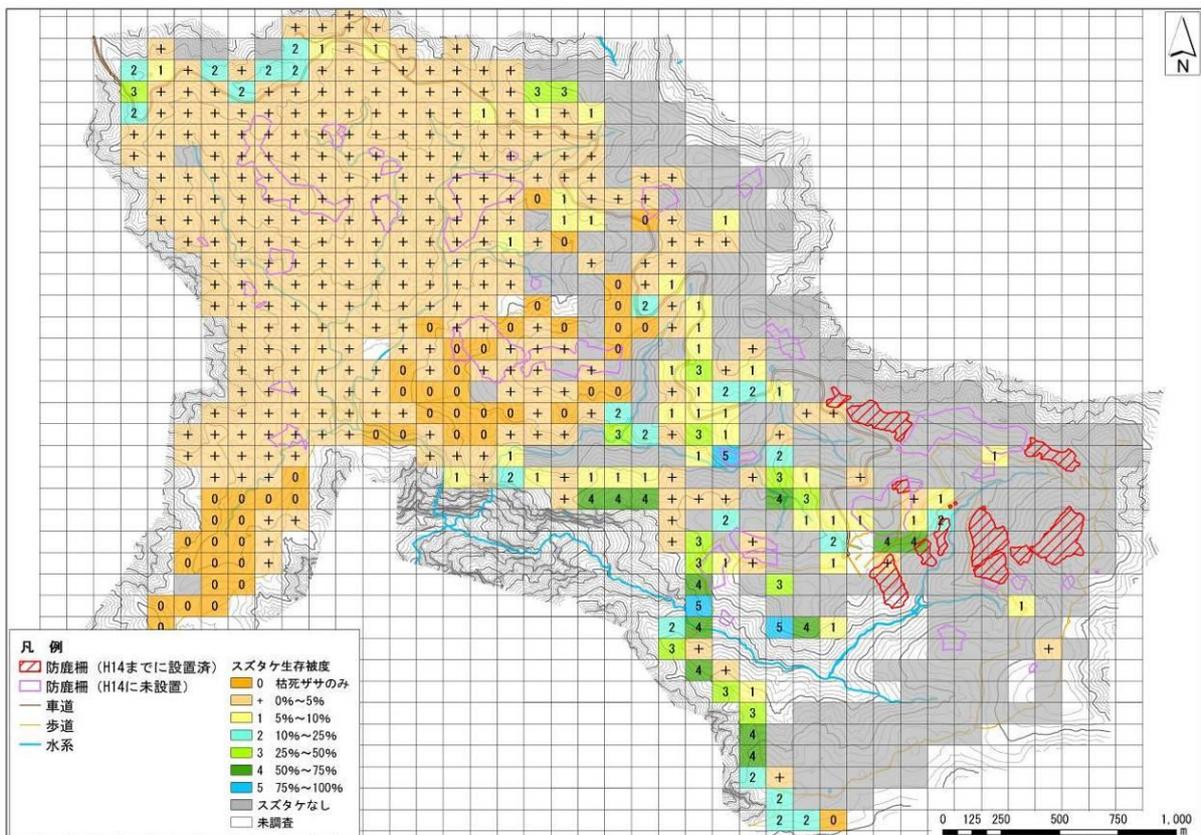


図 2 ミヤコザサが確認されたメッシュ数の割合の変化 図 3 ミヤコザサの被度クラスメッシュ数の変化

2) スズタケの分布状況の変化について

平成 14、20、24 年のスズタケの被度クラス分布をそれぞれ図 4 に示した。また、スズタケが確認されたメッシュ数の割合の変化を図 5 に、スズタケの被度クラスメッシュ数の変化を図 6 に示した。スズタケの分布の特徴と変化について、以下にまとめた。

- スズタケの分布域は、西大台が中心であり、東大台ではシオカラ谷を中心とした標高が低い場所に分布している（図 4）。
- 健全なスズタケ（被度クラス 4、5）が分布している場所はシオカラ谷周辺となっており、分布の中心である西大台では被度クラス+がその多くを占めている（図 4）。
- スズタケが確認されたメッシュ数の割合は平成 20 年に比べ、平成 24 年は増加していた（図 5）。
- 被度クラスのメッシュ数の変化については、被度クラス+（0～5%）、被度クラス 1（5～10）のメッシュ数が平成 24 年は平成 20 年に比べ増加していた（図 6）。
- ブナースズタケ疎型植生（植生タイプⅦ）に設置した経ヶ峰では、防鹿柵設置前の平成 14 年はスズタケの被度クラスが+（0～5%）と低かったが、防鹿柵設置（平成 15 年度）以降の平成 20 年には防鹿柵内のスズタケの被度クラス 1（5～10%）に増加し、設置後 8 年が経過した平成 24 年には被度クラス 4 に増加しているメッシュが見られた（図 4）。
- 平成 24 年に生存スズタケが確認されたメッシュ数は 396 メッシュであり、そのうちシオカラ谷の 6 メッシュでテングス病が確認された。平成 20 年の 5 メッシュに比べ 1 メッシュ増加した（図 7）。



※シオカラ谷部分は未調査

図 4(1) 平成 14 年のスズタケ被度クラス分布

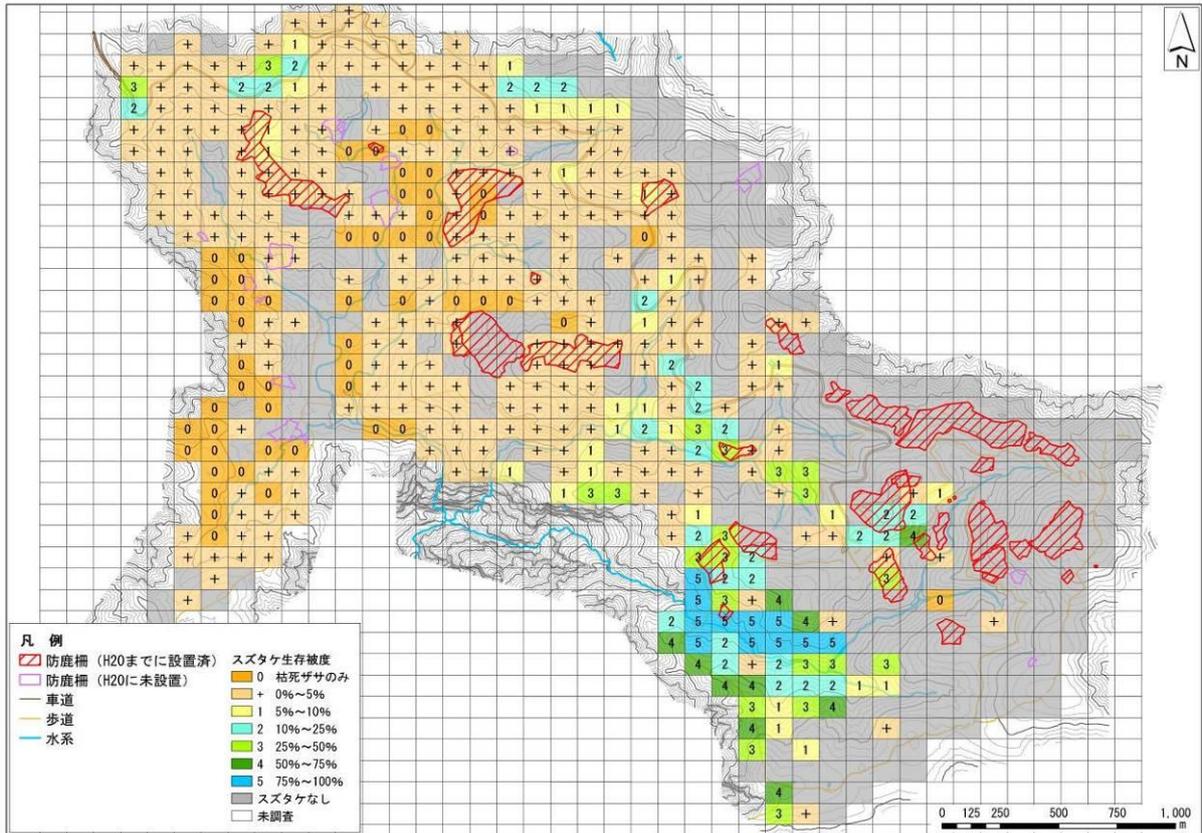


図 4(2) 平成 20 年のスズタケ被度クラス分布

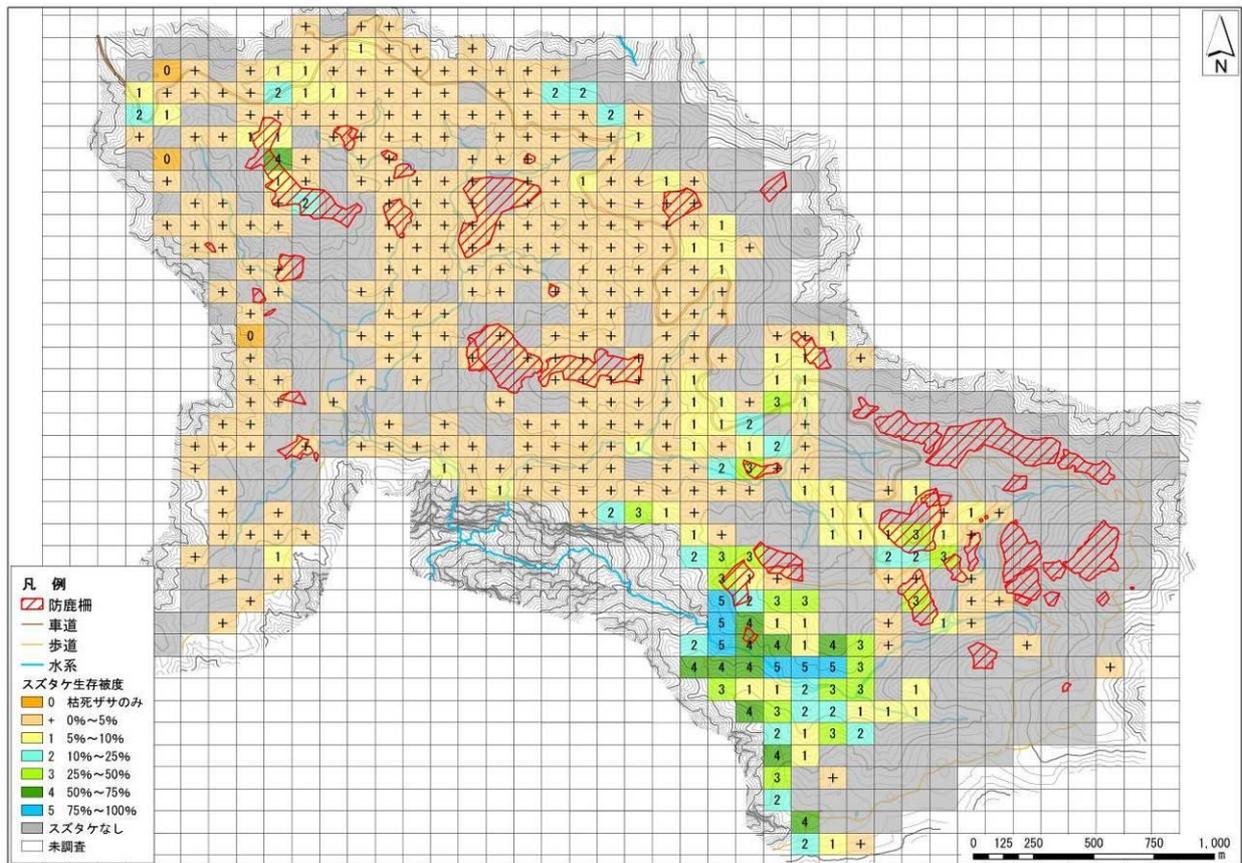


図 4(3) 平成 24 年のスズタケ被度クラス分布

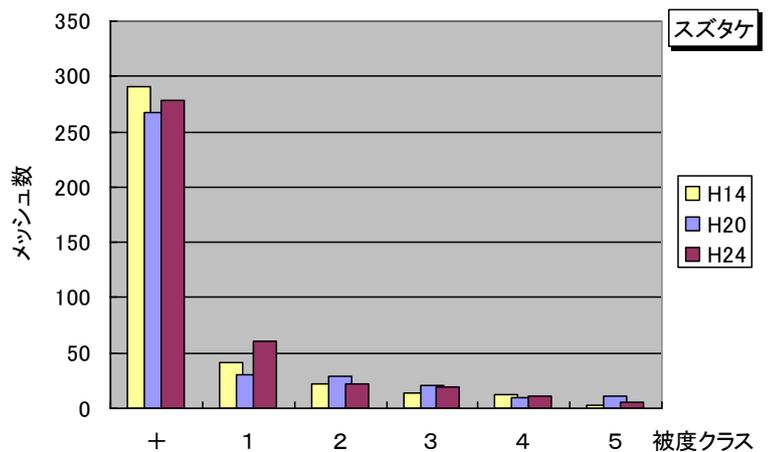
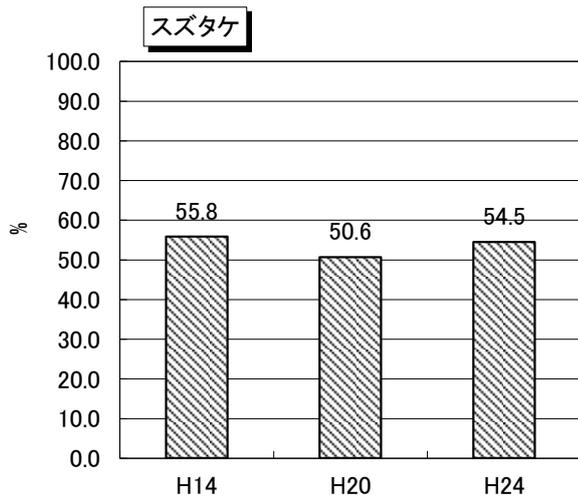


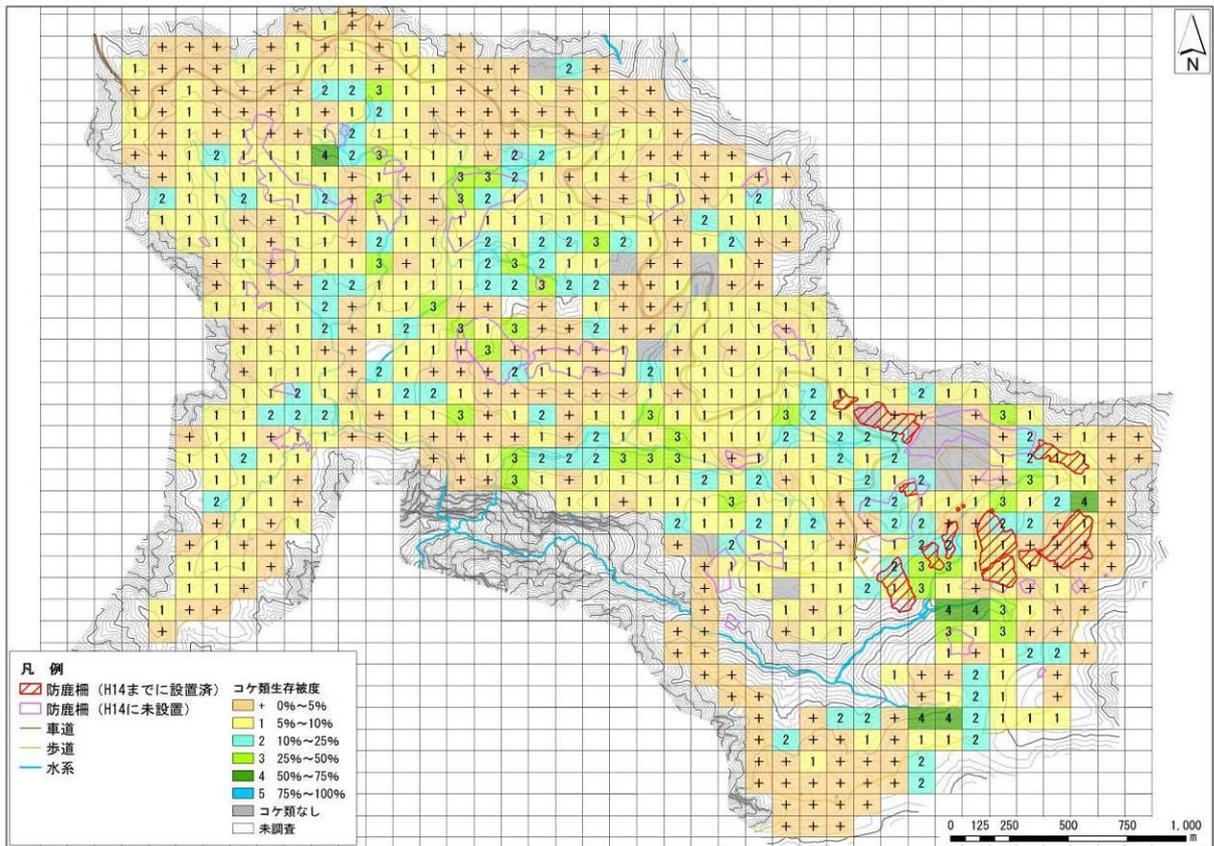
図5 スズタケが確認されたメッシュ数の割合の変化 図6 スズタケの被度クラスメッシュ数の変化

(2) コケ類の分布状況の変化

平成14、20、24年のコケ類の被度クラス分布をそれぞれ図7に示した。また、コケ類が確認されたメッシュ数の割合の変化を図8に、コケ類の被度クラスメッシュ数の変化を図9に示した。

コケ類の分布の特徴と変化について、以下にまとめた。

- 東大台でコケ類の被度が高い地域は正木ヶ原の北斜面、ヒバリ谷周辺である（図7）。
- 西大台では、沢筋の緩斜面にコケ類の被度が高い箇所が分布している（図7）。
- コケ探勝路付近では防鹿柵設置（平成17年度）以降、平成20年には被度クラス2（10～25%）から被度クラス1（5～10%）、被度クラス+（0～5%）に減少したが、被度クラス2に回復したメッシュが見られた（図7）。
- コケ類が確認されたメッシュ数の割合は、平成20年に比べ、平成24年で増加している（図8）。
- 被度クラスのメッシュ数の変化については、平成24年は平成20年に比べ、被度クラス+（0～5%）が減少していたが、その他の被度クラスはメッシュ数がほとんど変わらないか増加していた（図9）。



※シオカラ谷部分は未調査

図 7(1) 平成 14 年のコケ類被度クラス分布

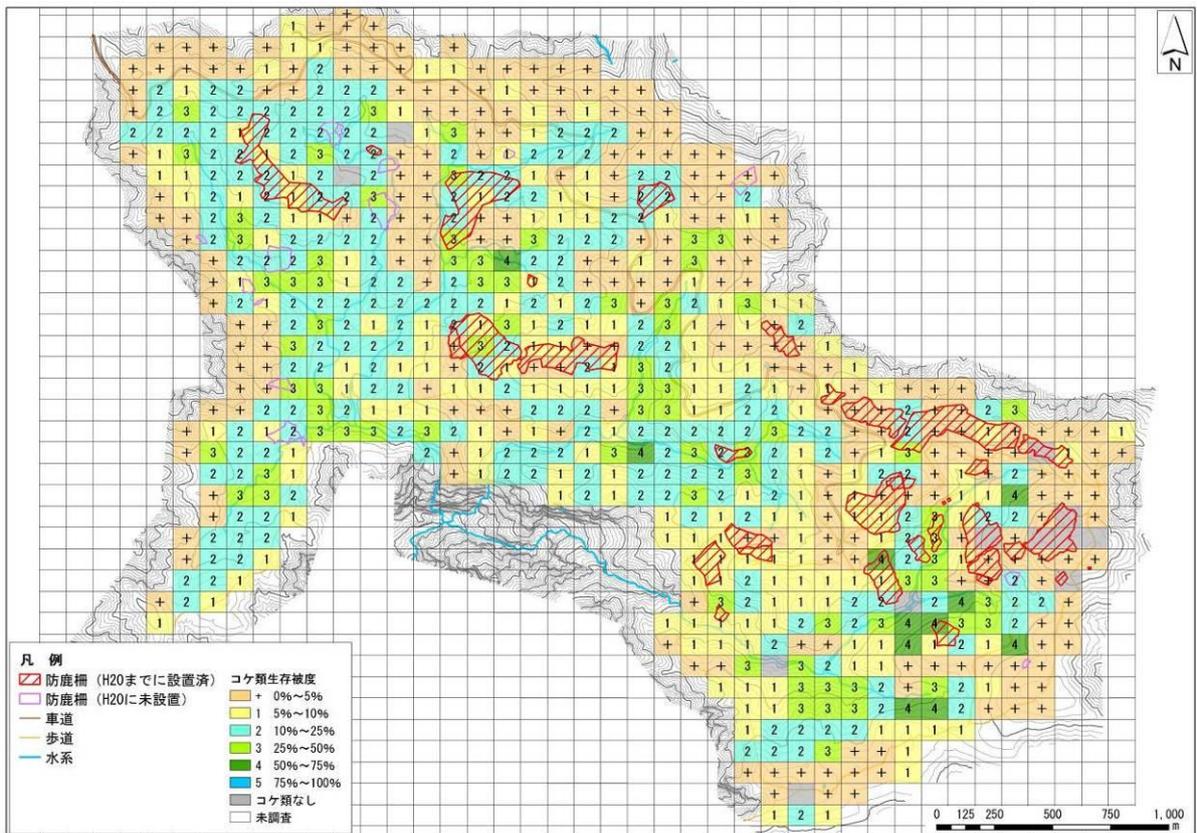


図 7(2) 平成 20 年のコケ類被度クラス分布

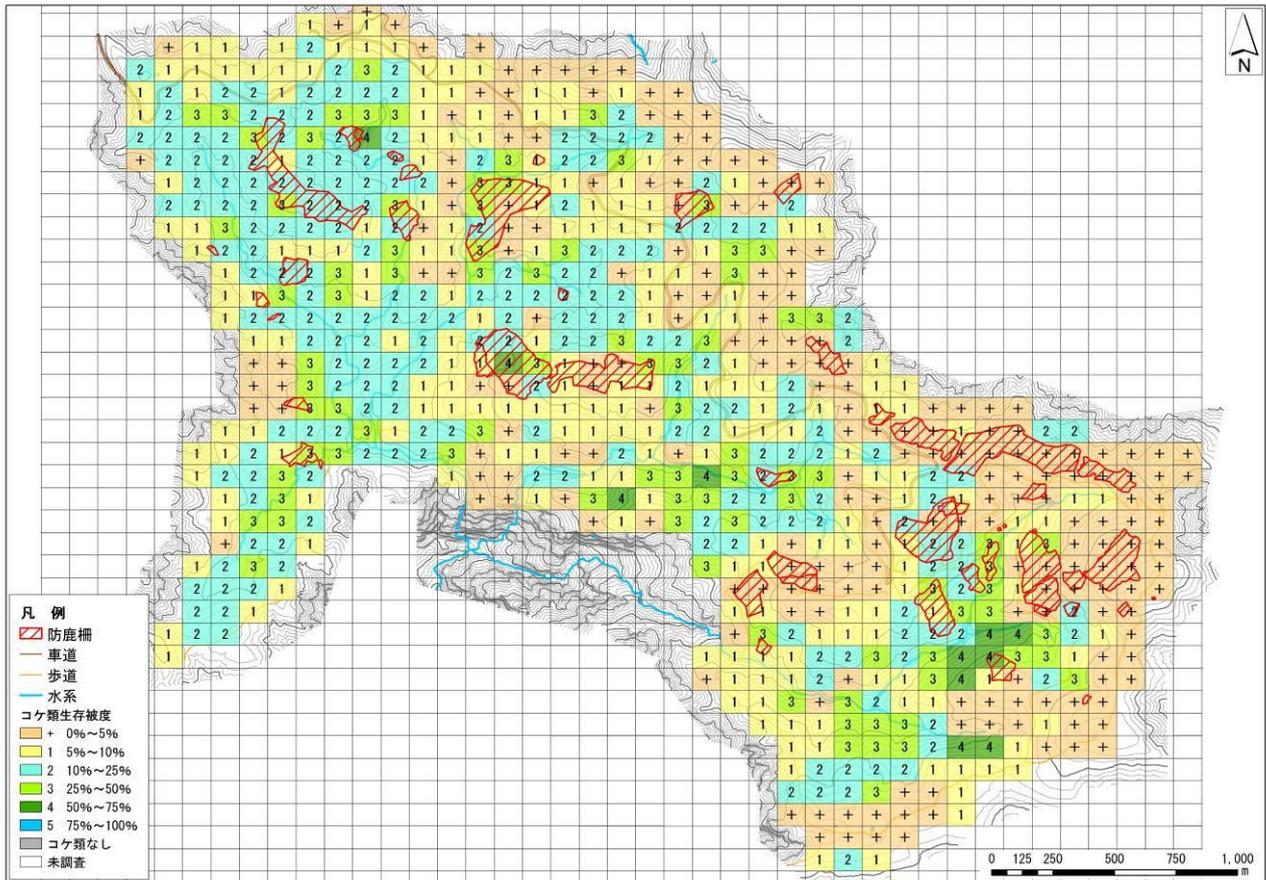


図 7(3) 平成 24 年のコケ類被度クラス分布

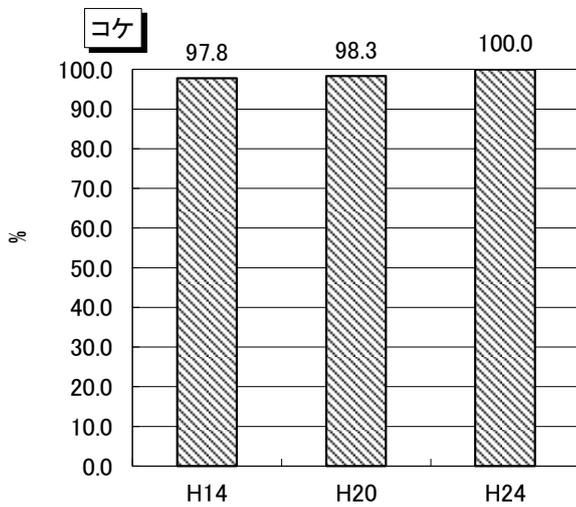


図 8 コケ類が確認されたメッシュ数の割合の変化

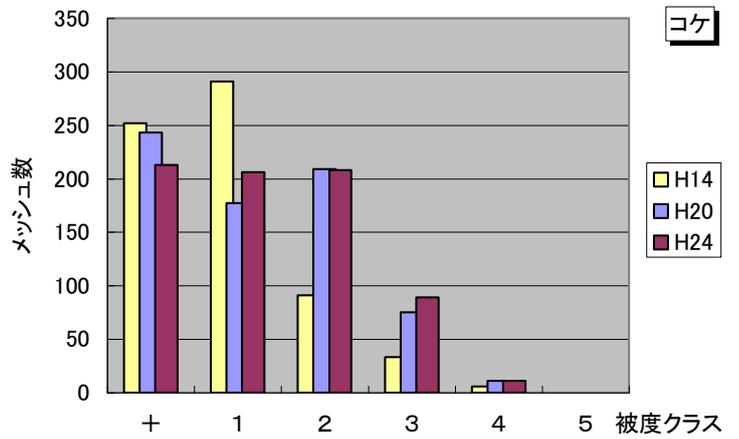


図 9 コケ類の被度クラスメッシュ数の変化